

平成30年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

1 目的

安曇野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施したものです。

(参考)

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の対象

第2次安曇野市総合計画 基本構想 前期基本計画 [平成30年度～令和4年度] に位置付けられた重点施策に関連する30事務事業において、平成30年度に実施した事務事業を点検評価の対象としました。

3 自己評価の基準

自己評価の基準については、概ね下記の基準によります。

評価区分	評価にあたっての考え方
A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C	一定の成果は上がっているものの、課題もあり、改善の必要がある
D	十分な成果が上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

4 点検・評価にあたり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項に規定する教育に関し学識経験を有する者として、以下の方を委嘱しました。

安曇野市社会教育委員 細田 利章 氏
前安曇野市社会教育委員 平田 米子 氏
前安曇野市立豊科南小学校長 筒井 年恵 氏

平成 30 年度 安曇野市教育委員会事務事業点検・評価項目一覧

第 2 次安曇野市総合計画 前期基本計画との関係	事務 事業 No	頁	評価対象事務事業	所管課	自己評価	
					H30	H29
基本目標 5 学び合い 人と文化を育むまち 5-1 子どもが健やかに育つまち 5-1-1 学校教育の充実 5-1-2 青少年の	1	3	いじめ・不登校対策事業	学校教育課	B	B
	2	4	教育支援センター運営事業	学校教育課	B	B
	3	6	就学相談事業	学校教育課	C	C
	4	7	教育指導員・教育相談員の配置	学校教育課	A	A
	5	8	学校加配職員及びスクールソーシャルワーカー等の配置・派遣事業	学校教育課	A	A
	6	10	学校 ICT 事業の推進	学校教育課	B	B
	7	12	英語教育の推進事業	学校教育課	C	C
	8	13	コミュニティスクール事業	学校教育課	C	C
	9	14	中学生議会事業	学校教育課	B	B
	10	15	指導主事「授業支援」事業	学校教育課	B	B
	11	16	入学準備金貸付制度	学校教育課	C	C
	12	17	学校安全対策事業	学校教育課	B	B
	13	18	小・中学校施設改修事業	学校教育課	B	B
	14	19	給食事業	学校教育課	B	B
	15	20	青少年健全育成事業	生涯学習課	B	B
	16	21	生涯学習講座実施事業	生涯学習課	B	B
	17	22	社会教育団体支援事業	生涯学習課	C	C
	18	23	放課後・家庭教育推進事業	生涯学習課	B	C
	19	24	児童館運営事業	生涯学習課	C	C
	20	25	中央公民館事業	生涯学習課	B	B
	21	27	交流学习センター等事業	文化課	B	B
	22	28	図書館活動の推進事業	文化課	B	B
基本目標 1 いきいきと健康に暮らせるまち 1-2 一人ひとりが大切にされるまち 1-2-4 人権の尊重	23	30	人権教育推進事業	生涯学習課	B	B
	24	31	人権啓発事業(安曇野市 1/2 成人記念事業)	生涯学習課	C	A
基本目標 5 学び合い 人と文化を育むまち 5-2 生涯を通じて学び合うまち 5-1-2 スポーツ活動の充実	25	32	体育団体等支援事業	生涯学習課	C	C
	26	33	スポーツ振興事業(スポーツ教室等開催事業)	生涯学習課	B	B
基本目標 5 学び合い 人と文化を育むまち 5-3 文化を創り育むまち 5-3-1 芸術文化活動の推進	27	34	文化芸術振興事業	文化課	B	B
	28	35	諸団体との協働事業	文化課	B	B
	29	37	財政支援団体への補助	文化課	B	B
	30	38	博物館・美術館等の管理運営	文化課	B	B
■学識経験者による個別の事務事業に対する意見、提言等	—	39				

事務事業	No.1	事務事業名： いじめ・不登校対策事業	H30 年度決算額	14 千円
事業の目的	いじめ・不登校の克服に向けて、学校・地域・関係機関が連携を図り、いじめ等の防止及び早期発見・早期対応を行う。			
事業内容	いじめ不登校問題対策連絡協議会において、児童、生徒のいじめ・不登校等の調査及び指導方法や発生防止の研究を行う。			
達成状況	<p>1 協議会委員構成(任期2年)</p> <p>教育長 1名 福祉関係者 2名 警察関係者 1名 PTA関係者 1名 教育関係者 6名 行政関係者 2名 学識経験者 1名 計14名</p> <p>2 会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市いじめ不登校問題対策連絡協議会(いじめ防止対策推進法制定により、前いじめ等対策委員会を発展的解消し設置) 開催：2回 <p>3 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校及び地域におけるいじめ等の状況に関すること ・学校、地域、関係機関等によるいじめ等の防止の取り組みに関すること ・上記の他、いじめ等の防止に関すること <p>4 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市の状況、関係機関における協力方法や対応可能なことについての情報共有や意見交換をすることができた。 			
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校の問題は全国的な課題であり、学校教育においても重要事項である。これらの対応や解決は、学校だけでは時に困難であり、各機関の連携が必要不可欠となる。定期的に各機関の代表が集まり、情報共有と意見交換を行うことは即時対応が必要となる際の早さにも重要なため、継続していく。 ・いじめ・不登校の定義を再確認、周知徹底を図り、未然防止・早期対応の観点から、各機関との更なる連携の強化を目指す。 			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.2	事務事業名： 教育支援センター運営事業	H30 年度決算額	8,959 千円																								
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の児童生徒を対象に、学校復帰に向けての指導及び援助を行なう。 ・学校生活等で課題、困難を抱える子ども達や保護者、学校関係者を支援する。 																											
事業内容	<p>安曇野市教育支援センター設置条例に基づき、教育支援センター内に適応指導教室と教育相談室を設置している。</p> <p>適応指導教室は不登校児童生徒の学校復帰に向けた適応指導・学習支援等を行う。教育相談室は不登校、引きこもり、発達障がい、学校生活、進路、子育て全般、しつけ等についての教育相談活動を実施している。</p>																											
達成状況	<p>【適応指導教室】</p> <p>5カ年の在籍児童生徒数の推移（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>18</td> <td>23</td> <td>19</td> <td>14</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>年度計</td> <td>24</td> <td>34</td> <td>33</td> <td>27</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の正式通室者21名のうち、8名が完全に学校復帰。適応指導教室を併用しながらの学校復帰者が7名。半数以上は適応指導教室で精神的に力をつけ、自己肯定感を高め、エネルギーを溜めることができたと評価できる。 ・不登校および不適応傾向の児童生徒の一時的な適応機関としての機能が学校及び保護者に認められ、不登校等児童生徒への指導の選択肢として定着しつつある。 ・福祉課子ども発達支援相談室職員に入室してもらい、専門的観点から助言を受けることで定期的な指導の見返しも行っている。 <p>【教育相談事業】</p> <p>「安曇野市における教育相談体制の整備と強化を図るとともに、地域における関係機関、関係団体との連携、共同体制を構築していく」ことを重点とし、時代のニーズに応じた運営を目指してきた。</p> <p>＜連携してきた関係機関、団体＞ 小中学校・特別支援教育コーディネーター連絡会・家庭児童相談室・子ども発達支援相談室・特別支援学校教育相談員・適応指導教室・就学相談調査員・障がい者総合支援センターあるぷ・その他</p> <p>※教育相談室の支援だけでは効果が不十分と考えられる場合、相談者の了解や要請により、上記関係機関、団体と連携して相談業務を行った。「チーム支援」の意識を深めるとともに、新たな視点や発想の基で、課題解決に向けた取り組みが可能となってきた。</p> <p>＜教育相談の状況＞ (1) 相談・入室者実人数 281人</p>				年度	H26	H27	H28	H29	H30	小学生	6	11	14	13	11	中学生	18	23	19	14	10	年度計	24	34	33	27	21
年度	H26	H27	H28	H29	H30																							
小学生	6	11	14	13	11																							
中学生	18	23	19	14	10																							
年度計	24	34	33	27	21																							

	<p>(2) 相談方法別相談件数(面談 1 回で複数人の面談を行なう場合あり) 来室による面談 167 件、電話相談 41 件、学校訪問 73 件</p> <p>(3) 相談対象者の年齢別相談回数(実質的な相談件数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>来訪者</th> <th>件数</th> <th>来訪者</th> <th>件数</th> <th>来訪者</th> <th>件数</th> <th>来訪者</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>36</td> <td>小学生</td> <td>199</td> <td>中学生</td> <td>40</td> <td>高校生</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>0</td> <td>教師</td> <td>1</td> <td>その他</td> <td>0</td> <td>合計</td> <td>281</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 相談の主訴(1 件の相談に関して複数の主訴あり) 性格行動 258 件、不登校 75 件、いじめ 3 件、発達障がい 41 件、知的障がい 18 件、心身症 13 件、学校・学級経営 44 件、学校生活・園生活 266 件 ※27 年度から、学校や保護者の要請により心理発達検査(WISC-IV) も実施。その結果を基に、学校職員や保護者等に説明の機会を持つようにしたことで、指導・支援の具体的な内容や方法、家庭生活でのわが子への具体的な接し方、子育てのポイント等を共有して実践することに繋がっている。子ども支援課とも連携して、認定子ども園の園長や保育士に対し、WISC 検査実施を通して園児への支援方法についての助言も実施。</p>		来訪者	件数	来訪者	件数	来訪者	件数	来訪者	件数	乳幼児	36	小学生	199	中学生	40	高校生	5	保護者	0	教師	1	その他	0	合計	281
来訪者	件数	来訪者	件数	来訪者	件数	来訪者	件数																			
乳幼児	36	小学生	199	中学生	40	高校生	5																			
保護者	0	教師	1	その他	0	合計	281																			
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカー・不登校支援コーディネーターと情報共有を図り、子どもの在籍校と、各校関係者との連携、関係機関との連携構築を更に進める。 ・今後は、支援を要する子どもに対する一貫した継続的支援体制が増々問われる。 ・課題は、部局を超えた連携支援が必須であるという共通認識のもと、更なる共同体制の構築に資していくことにある。(例：就園前、就園時から小学校入学後への移行支援、中学卒業後の支援の充実→福祉部、保健医療部、教育部などの連携が必要) 																									
自己評価	B																									

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.3	事務事業名： 就学相談事業	H30 年度決算額	2,228 千円																																		
事業の目的	安曇野市心身障がい児就学相談委員会では、知的障がい、その他心身障がいの疑いのある児童等の調査、審査（入級、退級についての審査）および就学の相談を行う。																																					
事業内容	1 安曇野市心身障がい児就学相談委員会（委員 18 名） 年 3 回開催 2 5 地区別就学相談小委員会（小委員のべ数 71 名）年間 15 回開催 3 小委員会に向け資料作成のため、調査員が幼稚園、認定こども園にて観察と相談（観察園児のべ数 153 名）年 2 回実施 4 平成 29 年度就学相談を受け平成 30 年度小中学校 1 年に入学した児童生徒の経過観察（小 1 児童 71 名、中 1 生徒 43 名、計 114 名）年 1 回実施																																					
達成状況	(判定数) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象者</th> <th rowspan="2">人数</th> <th colspan="3">判定結果</th> <th rowspan="2">判定と異なる就学者</th> </tr> <tr> <th>通常学級</th> <th>特別支援学級</th> <th>特別支援学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼児</td> <td>64</td> <td>19</td> <td>39</td> <td>6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>108</td> <td>5</td> <td>98</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>15</td> <td>2</td> <td>13</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>187</td> <td>26</td> <td>150</td> <td>11</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>					対象者	人数	判定結果			判定と異なる就学者	通常学級	特別支援学級	特別支援学校	幼児	64	19	39	6	0	児童	108	5	98	5	0	生徒	15	2	13	0	0	計	187	26	150	11	0
対象者	人数	判定結果			判定と異なる就学者																																	
		通常学級	特別支援学級	特別支援学校																																		
幼児	64	19	39	6	0																																	
児童	108	5	98	5	0																																	
生徒	15	2	13	0	0																																	
計	187	26	150	11	0																																	
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・就学判定数が平成 29 年度より 23 名増となっている。今後、早期スタートで年中からの相談も増えることが予想される。委員会前後の事務量や調査員の相談業務量の増加が著しく、相談日調整が難しい。 ・園児の就学相談の早期スタートが必要である。昨年より子ども発達相談室を中心に年中児のスクリーニングを開始し、福祉課・健康推進課・子ども支援課・学校教育課などが、それぞれに受け持つことを、今できる連携の中で最善を尽くしてきているが、さらに日常的な連携のための根本的な見直しを要望していきたい。 																																					
自己評価	C																																					

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.4	事務事業名： 教育指導員・教育相談員の配置	H30 年度決算額	－ 千円
事業の目的	各学校における学力・体力向上をはかると共に教育相談に対応し、安定した学校運営が行えるようにする。			
事業内容	(1) 教育全般について各学校・各機関との連携、支援 (2) 学力・体力向上にむけての取組 (3) 就学相談 (4) 教育相談 (職員体制：教育指導員 3 名 教育相談員 1 名)			
達成状況	(1) 教育全般について各学校・各機関との連携、支援 ① 学校と教育指導員との懇談会 4、5 月に実施。 市内 17 校 ② 保護者や学校の相談対応 ③ 福祉課、子ども支援課等との連携担当者会議を実施 週 1 回 (2) 学力・体力向上に向けての取組 ① 安曇野市学力・体力 4 ヶ年計画の実施 (27 年度～30 年度) ② 組織及び運営 ア 学力向上推進委員会 ・ 全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察し、報告書にまとめると共に、次年度へ向けた授業改善にかかわる提言をした。 イ 体力向上推進委員会 ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査や、新体力テストの結果を分析し、公表すると共に、体力向上にむけた実践を公表するとともに、体づくり、運動遊びの研修として、長野県版運動プログラム普及事業の実施。各学校に訪問し、体づくり・運動遊びや日常の運動などについて支援。 ウ 部活動運営委員会 ・ スクールサポート事業として、健全な部活動のあり方について検討、各校の課題解決に向けて支援。 (3) 就学相談 ① 心身障がい児就学相談委員会 ・ 小中学校入学及び在学中の児童生徒に関わる、適切な就学の検討。 (4) 教育相談 教育支援センター教育相談室での教育相談に対応。			
事業の課題及び方向性	・ 学力・体力向上については、4 ヶ年計画の最終年として「実践と評価・考察」に取り組み、実践評価考察と共に安曇野市の特徴や今後の実践課題を整理した。 ・ 就学支援および教育相談については、児童生徒の観察、保護者の意向などを確実に捉え、学校や各機関との連携を図りながら対応していく。			
自己評価	A			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.5	事務事業名： 学校加配職員及びスクールソーシャルワーカー等の配置・派遣事業	H30 年度決算額	142,355 千円																																														
事業の目的	障がい等により特別な支援を要する児童・生徒の、よりよい学校生活を送るための加配職員を配置し、学習や学校生活の支援を行う。また、障がい児等指導の専門職を各校に派遣し、指導方法の相談・助言を行い健やかな成長を支援する。																																																	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の要望と実態等を鑑み、各種支援員等の配置。 ・不登校対策として、各校巡回のスクールソーシャルワーカー、不登校支援コーディネーター、スクールカウンセラーを派遣。相談事業充実のため、障がい児等指導相談員（学校心理士・作業療法士・言語聴覚士）を派遣。 																																																	
達成状況	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい児支援員は、特別支援学級や普通学級の仲間と行う授業等活動時に、特に学級内の人間関係面支援とその児童生徒の特性に応じた支援を行う。子どもが安定して活動に参加し、自己実現の経験が数多くできるよう努め、支援を要する児童生徒と周囲の集団の生活安定に大きく寄与している。 ・各校配置の中間教室支援員他、スクールソーシャルワーカー、不登校支援コーディネーター及び市適応指導教室等、不登校支援に携わる職員が不登校傾向の子どもの支援の中核となり、関係機関と連携して登校に繋げる活動を行っている。 <p>【配置・派遣状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>職 名</th> <th>延べ人数</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">賃金</td> <td>医療支援員（看護師）</td> <td>1</td> <td>（小学校）</td> </tr> <tr> <td>障がい児支援員</td> <td>19</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別支援学級支援員</td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学習向上支援員</td> <td>7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中間教室支援員</td> <td>14</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小中連携不登校支援員</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スクールソーシャルワーカー 不登校支援コーディネーター</td> <td>2</td> <td>（巡回型）</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>66</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">謝礼</td> <td>スクールカウンセラー</td> <td>7</td> <td>（巡回型）</td> </tr> <tr> <td>障がい児等指導相談員</td> <td>3</td> <td>（巡回型）</td> </tr> <tr> <td>放課後学習指導室支援員</td> <td>39</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>49</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>115</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○スクールソーシャルワーカー、登校支援コーディネーター活動のべ件数 面談 180 件、家庭訪問 58 件、登校支援 130 件、日中活動支援 955 件、 支援会議 223 件、その他 323 件 合計 1,869 件</p>					職 名	延べ人数	備 考	賃金	医療支援員（看護師）	1	（小学校）	障がい児支援員	19		特別支援学級支援員	20		学習向上支援員	7		中間教室支援員	14		小中連携不登校支援員	3		スクールソーシャルワーカー 不登校支援コーディネーター	2	（巡回型）	小計	66		謝礼	スクールカウンセラー	7	（巡回型）	障がい児等指導相談員	3	（巡回型）	放課後学習指導室支援員	39		小計	49			合計	115	
	職 名	延べ人数	備 考																																															
賃金	医療支援員（看護師）	1	（小学校）																																															
	障がい児支援員	19																																																
	特別支援学級支援員	20																																																
	学習向上支援員	7																																																
	中間教室支援員	14																																																
	小中連携不登校支援員	3																																																
	スクールソーシャルワーカー 不登校支援コーディネーター	2	（巡回型）																																															
	小計	66																																																
謝礼	スクールカウンセラー	7	（巡回型）																																															
	障がい児等指導相談員	3	（巡回型）																																															
	放課後学習指導室支援員	39																																																
	小計	49																																																
	合計	115																																																

事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を抱えている児童生徒が増加している中、障害者差別解消法を受け、合理的配慮が求められている。そのためには支援を行う職員配置について、より切実な要望と支援員の重要性が増している。 ・このことから、当事業は継続することと共に、保護者の要望からも一層の充実を図っていかなくてはならない。
自己評価	A

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.6	事務事業名： 学校 ICT 事業の推進	H30 年度決算額	103,507 千円
事業の目的	<p>情報化の進む社会において必需品であるパソコン等に等しく触れる機会を設けるとともに、どの児童・生徒にとっても理解しやすい授業となるよう ICT 機器を活用し、子ども達の「生きる力」を育む学校教育を推進する。</p> <p>慢性的に飽和状態にある教員の業務について、ICT の活用で校務事務の効率化を図り、授業や子供たちと向き合う時間を創出できる環境を整備する。</p>			
事業内容	<p>教育用・校務用のパソコン等の情報機器について、セキュリティを考慮しながら、見直しも含めた更新・整備を行う。</p> <p>新学習指導要領に適合した授業の推進を支援するため、文部科学省が示す「第 2 期教育振興基本計画」に基づいた情報機器の導入を行う。</p> <p>校務支援システムの導入と積極的活用により、教員の事務処理に係る負担軽減を図り、授業の質の向上への側面的支援を行う。</p>			
達成状況	<p>平成 30 年度は穂高地域の小・中学校 5 校について、情報機器の更新を行った。従来からの大きな転換として、パソコン教室へタブレット兼用の機種を導入した。合わせて ICT 環境の整備に重要な学校内ネットワークの見直しを行い、セキュリティの強化を図った。</p> <p>今後、更新時期を迎える学校について、学習用パソコンはタブレット型を想定した仕様とし、校務用のパソコンにおいてはコストパフォーマンスに配慮しながら、なるべく快適な操作環境を確保できる仕様により調達する。同時に学校内ネットワークの再構築を行う。</p> <p>平成 29 年度に「第 2 期教育振興基本計画」の整備目標の機器の 1 つである電子黒板を市内中学校に一斉導入（126 台）を行っており、その後の授業における使用状況の確認・検証を行い、その活用度を高める中で、小学校への早期導入を行っていく。</p> <p>【センターサーバ設置】 平成 27～28 年度に実施済（次更新は令和 2 年度～）</p> <p>グループウェア・校務管理サーバ、資産管理サーバ、 教育用ファイルサーバ、管理サーバ、フィルタリングサーバ</p> <p>【各小中学校パソコン等更新】</p> <p>平成 30 年度 穂高地域 5 校 (穂高南小・穂高西小・穂高北小・穂高東中・穂高西中)</p> <p>令和元年度 豊科・三郷地域 7 校 (豊科南小・豊科北小・豊科東小・豊科南中・豊科北中 三郷小・三郷中)</p> <p>【図書館システム】 平成 26 年度に実施済（次更新は令和元年度） 蔵書管理、貸出・返却処理</p> <p>【電子黒板】 平成 29 年度 電子黒板 126 台導入 中学校の普通教室他 平成 30～令和元年度は検証期間とし、結果を待って小学校への導入を計画</p>			

事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板と校務支援システムの導入を小学校から強く要望されている。新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、タブレット端末等の整備も推進する必要がある。 ・校務支援システムは県の共同調達により統一仕様の導入が可能になる。計画的に導入するため、情報機器に精通した職員の育成が必要である。
自己評価	B

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.7	事務事業名： 英語教育の推進事業	H30 年度決算額	70,535 千円
事業の目的	グローバル化する国際社会に対応できる人材の育成を目指し、国際感覚を養うと共に、英会話能力の向上と英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童・生徒を育成する。			
事業内容	中学生海外ホームステイ交流派遣事業や中学校英語課外授業を実施するほか、中学校 7 校に 1 名ずつの外国人 A L T と小学校の外国語活動において外国人 A L T 4 名と日本人外国語教育コーディネーター 3 人を配置し、英語教育の推進を図る。			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生海外ホームステイ交流派遣事業 本事業も 5 回目となり、平成 30 年度事業においても市内中学校 2 年生に募集を行い、14 人の参加生徒に対し 52 人の応募があった。 選考された参加生徒は、3 回のオリエンテーション、6 回の英会話レッスンを受講しホームステイに臨んだ。現地での貴重な体験は、令和元年 5 月 26 日開催の帰国報告会で多くの来場者へ発表され、頼もしい中学生の姿を見ていただくことができた。 派遣期間：平成 31 年 3 月 16 日（土）から 3 月 25 日（月）までの 10 日間 派遣先：オーストラリア メルボルン ・中学校英語課外授業 市内中学校 7 校で放課後を活用して実施している。授業は原則的に全て英語による実践的な英会話授業で、「英会話がもっと上達したい」「外国人と日常会話ができるようになりたい」と思う生徒が、ALT、参加生徒と英語でコミュニケーションを取ることで、英語の楽しさを実感できる課外授業となっている。 平成 30 年度参加生徒数：77 人 ・外国語指導助手派遣事業 小学校、中学校へ A L T を派遣し、英語授業におけるチームティーチングや英語に触れる機会は、子ども達の国際的視野の育成やコミュニケーション能力の素地を養い、英語教育の推進に繋がっている。 			
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・英語課外授業は、参加希望者の多さから、1 クラスあたりの生徒数の見直しを行い、平成 30 年度から 12 人としたが、学校による希望者の数に差も見られ、一部の学校では定員割れを起こしている。 ・中学生海外ホームステイ交流派遣事業は民間企業による類似事業が展開されていることから、事業内容の見直しを検討する時期にきている。 			
自己評価	C			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.8	事務事業名： コミュニティスクール事業	H30 年度決算額	7,659 千円																				
事業の目的	子どもたちの育成環境の充実に向け、学校と家庭さらに地域の人々と連携を図り、開かれた特色ある学校づくりを進めるため、地域住民が多様な形態で学校教育を支援し、大人との関りを通じて「生きる力」を育む。																							
事業内容	地域の方々が学校支援ボランティアとして、学校が必要とする支援活動に参加するほか、立志塾の開催、各地域における地域教育協議会においては、学校運営等の協議を行い地域と学校が共通理解を図る。																							
達成状況	<p>学校支援ボランティアの活動</p> <p>平成 30 年度の市内全小中学校のコミュニティスクール事業の申請件数（部活動外部指導者申請を含む）は 245 件で、昨年度より 22 件増加している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成 29 年度申請件数</th> <th>平成 30 年度申請件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習支援活動 85 件</td> <td>学習支援活動 91 件</td> </tr> <tr> <td>総合的な学習支援活動 45 件</td> <td>総合的な学習支援活動 42 件</td> </tr> <tr> <td>読書支援活動 19 件</td> <td>読書支援活動 20 件</td> </tr> <tr> <td>子ども安全支援活動 11 件</td> <td>子ども安全支援活動 10 件</td> </tr> <tr> <td>環境整備支援活動 6 件</td> <td>環境整備支援活動 7 件</td> </tr> <tr> <td>外国籍児童生徒支援活動 6 件</td> <td>外国籍児童生徒支援活動 8 件</td> </tr> <tr> <td>障がい児支援活動 2 件</td> <td>障がい児支援活動 4 件</td> </tr> <tr> <td>部活動支援活動（外部講師）48 件</td> <td>部活動支援活動（外部講師）62 件</td> </tr> <tr> <td>課外活動支援活動 1 件</td> <td>課外活動支援活動 1 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>立志塾の開催</p> <p>市内各中学校では、安曇野の中学生のよりよい育ちに向け、子どもたちの心に火をつけ、高き志を培うことを目標に、学社連携の取り組みとして、各学校に講師を招き開催している。</p> <p>平成 30 年度開催学校：7 校 開催回数：17 件</p>				平成 29 年度申請件数	平成 30 年度申請件数	学習支援活動 85 件	学習支援活動 91 件	総合的な学習支援活動 45 件	総合的な学習支援活動 42 件	読書支援活動 19 件	読書支援活動 20 件	子ども安全支援活動 11 件	子ども安全支援活動 10 件	環境整備支援活動 6 件	環境整備支援活動 7 件	外国籍児童生徒支援活動 6 件	外国籍児童生徒支援活動 8 件	障がい児支援活動 2 件	障がい児支援活動 4 件	部活動支援活動（外部講師）48 件	部活動支援活動（外部講師）62 件	課外活動支援活動 1 件	課外活動支援活動 1 件
平成 29 年度申請件数	平成 30 年度申請件数																							
学習支援活動 85 件	学習支援活動 91 件																							
総合的な学習支援活動 45 件	総合的な学習支援活動 42 件																							
読書支援活動 19 件	読書支援活動 20 件																							
子ども安全支援活動 11 件	子ども安全支援活動 10 件																							
環境整備支援活動 6 件	環境整備支援活動 7 件																							
外国籍児童生徒支援活動 6 件	外国籍児童生徒支援活動 8 件																							
障がい児支援活動 2 件	障がい児支援活動 4 件																							
部活動支援活動（外部講師）48 件	部活動支援活動（外部講師）62 件																							
課外活動支援活動 1 件	課外活動支援活動 1 件																							
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「安曇野市コミュニティスクール事業（ACS）」となってから 2 年経過した。これまでの組織体制の問題を洗い出し、見直しをしていく必要がある。 ・国のコミュニティスクールの動向を注視しながら、今後の在り方を検討する。他の多くの自治体で行われているボランティアへの謝礼の無償化なども参考に進めていく。 																							
自己評価	C																							

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.9	事務事業名： 中学生議会事業	H30 年度決算額	40 千円
事業の目的	中学生の目線による斬新な発想やアイデアを今後の協働のまちづくり推進に活かすとともに、中学生が主権者の立場で政治への関心を高められるようにする。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内各中学校（7校）2年生から、計19人を中学生議員として委嘱する。 ・全3回の学習会で、市政について市職員から学習する。 ・提言型の質問書を作成し、中学生議会当日発表する。 			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会の実施 第1回学習会では、市政全般についての説明を受け、議員の方のお話を聞いた。また、目指す安曇野市像を視覚化するために、グループ内でウェビングマップを作成し、全体で発表した。 グループは6つに分かれて実施（グループ名は総合計画と揃える）。 （1）穏やかに暮らせるまち（2）安全・安心・快適なまち （3）豊かな産業のあるまち（4）人と文化を育むまち （5）協働によるまちづくり（6）環境にやさしいまち 第2回、第3回学習会では、市の12部42課の方から市政について深く説明を聞く機会を設けた。 ・質問書の作成 各中学校の担当教諭のご指導のもと、質問書を作成した。 ・傍聴を増やすための取組 ○議会当日にパブリックビューイングとして、大会議場にて中継による傍聴を可能にした。 ○支所や図書館などに、中学生議会のポスターの掲示依頼。 →30年度の傍聴数は66名（昨年度74名、一昨年度73名）。 ・議会当日の進行について 部長等の答弁を受けて、中学生議員が「自分にできること」をひとこと添えた。一方通行のやり取りではなく対話的に行えるよう配慮した。 			
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・議員以外の生徒にも議会への興味・関心を高めてもらうために、追求課題についての意識調査等のアンケートを自校で実施する。追求活動がしやすいように、学校単位で課題を選択し、チームで追求する。 ・休日の学習会を1回にして追求の活動時間を確保する。そのために追求課題は各部局から提案してもらう。 			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.10	事務事業名： 指導主事「授業支援」事業	H30 年度決算額	一 千円																																										
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野の教育大綱と学力体力向上4カ年計画を実現する。 ・新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて教員の資質能力向上を図る。 																																													
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校 17 校への授業づくり支援 ・研究グループ（部会）への参加、支援 ・指導主事通信を発行し、先生方や児童生徒のよい姿をとらえ、広めていく。 																																													
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「できる限り学校へ足を運ぶこと」を心がけ、156 回訪問した。そのうち、学校からの訪問要請は 93 回で、日々の授業づくりをする機会を頂いた。 ・30 年度はイングリッシュデイを全小学校で開催した。数多くの英語の授業を参観し、先生方と共に小学校英語の授業について考えた。 ・学校の全体研修会に招かれ、全学級を参観したり、全体の場で説明したりする機会もいただき、「主体的・対話的で深い学び」への啓発をすることができた。 ・学級づくりや児童生徒指導にかかわる支援要請も多く、日々学校のニーズに応えられる支援を目指し先生方と共に児童生徒の指導をする機会もいただいた。 <p>支援内容の内訳</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="3">学校訪問総数</th> <th colspan="4">学校訪問の内訳</th> </tr> <tr> <th></th> <th>訪問回数</th> <th>昨年度</th> <th>授業参観</th> <th>昨年度</th> <th>授業づくり支援</th> <th>昨年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>100</td> <td>68</td> <td>50</td> <td>53</td> <td>50</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>56</td> <td>67</td> <td>27</td> <td>44</td> <td>29</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>156</td> <td>135</td> <td>77</td> <td>97</td> <td>79</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>校外</td> <td>21</td> <td>6</td> <td colspan="2">※上記の内、学校から要請数 →93</td> <td></td> <td>77</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・教師主導型の授業が減り、児童生徒が主体的に学習を進める場面が増えた。 				学校訪問総数			学校訪問の内訳					訪問回数	昨年度	授業参観	昨年度	授業づくり支援	昨年度	小学校	100	68	50	53	50	15	中学校	56	67	27	44	29	23	合計	156	135	77	97	79	38	校外	21	6	※上記の内、学校から要請数 →93			77
学校訪問総数			学校訪問の内訳																																											
	訪問回数	昨年度	授業参観	昨年度	授業づくり支援	昨年度																																								
小学校	100	68	50	53	50	15																																								
中学校	56	67	27	44	29	23																																								
合計	156	135	77	97	79	38																																								
校外	21	6	※上記の内、学校から要請数 →93			77																																								
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事の引き上げに伴い、指導主事による学校訪問支援から、教育指導員や教育相談員による「学級づくり・授業づくりサポート事業」に切り替えていく。 ・学校からの要請に応じて、教職経験及び専門的知識の豊富なスタッフが支援にあたる。要請内容によっては、市教育委員会の他課他部署や外部につないで、サポートする人を紹介していく。 																																													
自己評価	B																																													

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.11	事務事業名： 入学準備金貸付制度	H30 年度決算額	1,150 千円																									
事業の目的	未来を担う人材の育成を図るため、高等学校又は大学等への入学に要する費用の支出が困難な保護者に対し、入学準備金を無利子で貸付ける「安曇野市入学準備金貸付制度」を創設し、平成 28 年 11 月から運用を開始した。																												
事業内容	平成 31 年 4 月に高等学校又は大学等への入学を希望する生徒の保護者で、入学に要する費用の支出が困難な方に対し、入学準備金の貸付けを無利子で行う。																												
達成状況	<p>1. 貸付限度額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">学校種別等</th> <th>貸付限度額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">高等学校・高等専門学校</td> <td>国・公立</td> <td>10 万円</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>30 万円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大学・短期大学・専門学校</td> <td>国・公立</td> <td>40 万円</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>60 万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 要件</p> <p>(1) 高校・大学等に入学することが確実である進学希望者の保護者で安曇野市に住民票があり、かつ、現に市内に居住している方</p> <p>(2) 生計を一にする者の所得の合計額が基準額以下である方</p> <p>(3) 所得の合計額が基準額以上であっても、経済状況等が急変した方</p> <p>(4) 連帯保証人を立てられる方</p> <p>3. 返済方法 入学月の 4 月から返済が始まり、進学者の通常の修学期間内に完済</p> <p>4. 平成 30 年度利用実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>公立高校</th> <th>私立高校</th> <th>公立専門学校</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2 件</td> <td>2 件</td> <td>1 件</td> <td>5 件</td> </tr> <tr> <td>150,000 円</td> <td>600,000 円</td> <td>400,000 円</td> <td>1,150,000 円</td> </tr> </tbody> </table>				学校種別等		貸付限度額	高等学校・高等専門学校	国・公立	10 万円	私立	30 万円	大学・短期大学・専門学校	国・公立	40 万円	私立	60 万円	公立高校	私立高校	公立専門学校	計	2 件	2 件	1 件	5 件	150,000 円	600,000 円	400,000 円	1,150,000 円
学校種別等		貸付限度額																											
高等学校・高等専門学校	国・公立	10 万円																											
	私立	30 万円																											
大学・短期大学・専門学校	国・公立	40 万円																											
	私立	60 万円																											
公立高校	私立高校	公立専門学校	計																										
2 件	2 件	1 件	5 件																										
150,000 円	600,000 円	400,000 円	1,150,000 円																										
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度は、夏休み前に中学校、高校等の生徒及び保護者への周知を図った。令和元年度も引き続き夏休み前の周知を行う。 平成 29 年度から返済が開始されているが、滞納となる世帯が出始めてきているので、一定期間経過した後、保護者や連帯保証人への催告を都度行っていき、面談を実施しながら、計画的な返済を促していく。 																												
自己評価	C																												

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.12	事務事業名： 学校安全対策事業	H30 年度決算額	3,105 千円
事業の目的	通学路、学校敷地内の安全確保に対する対策を実施する。			
事業内容	児童・生徒の安全確保のため、熊よけ鈴の配布、通学路安全マップの作成、スズメ蜂等の害虫駆除、学校緊急無線通報システム、学校安全連絡網メール配信システムの活用、通学路合同点検の実施等の各種対策を行う。			
達成状況	<p>(1) 熊よけ鈴の配布 小学校に対し希望数を調査し、予算の範囲内で購入・配布している。 平成 30 年度配布学校数：8 校（100 個）</p> <p>(2) 通学路安全マップの作成 通学路における危険箇所、注意箇所を記載した安全マップを関係機関及び地域に配布し、安全指導、見守り等の安全確保に活用していただくほか、市ホームページにも掲載し、一般の方が確認できるようにしている。</p> <p>(3) スズメ蜂等害虫駆除 学校敷地内のスズメ蜂の巣を専門業者に依頼し、駆除を行っている。 平成 30 年度実施件数：6 校 10 回</p> <p>(4) 学校緊急無線通報システム 学校内に不審者が侵入した場合や事故等があった場合、即座に職員室に連絡が取れる緊急無線通報システムを活用している。</p> <p>(5) 学校安全連絡網メール配信システム 安全連絡網メール配信システム（オクレンジャー）により、警察からの不審者情報をタイムリーに送信させていただくほか、緊急連絡網として活用している。平成 30 年度より市教育委員会からの発信することが可能になったため、学校の負担軽減に寄与した。</p> <p>(6) 通学路合同点検の実施 通学路の継続的な安全確保の取り組みとして「安曇野市通学路交通安全プログラム」を策定し、地区・PTA 要望としてご提出いただいた、通学路危険箇所を警察、道路管理者、学校、地域の方々と点検を行い、改善等の対応をしている。 また、学校教育課としても「通学路」標識等の修繕、設置工事を実施している。平成 30 年度設置枚数：10 ヶ所</p>			
事業の課題及び方向性	児童・生徒の安全確保については、関係機関等との連携を強化し、情報共有を行いながら推進していく。			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.13	事務事業名： 小・中学校施設改修事業	H30 年度決算額	617,749 千円												
事業の目的	1. 学校教育法に基づき、小・中学校施設を整備する。 2. 国が示す耐震性を確保し、安全な施設環境を提供する。 3. 老朽化した施設を改修し、健全な施設環境を提供する。															
事業内容	1. 屋内運動場の非構造部材の耐震化 2. 校舎の長寿命化改良															
達成状況	1. 屋内運動場の非構造部材の耐震化 災害発生時に避難所となる体育館等の天井等の落下防止対策工事を行い、防災機能を強化した。平成 30 年度は計画していた 4 箇所を施工した。 <table border="1" data-bbox="429 714 1398 965"> <thead> <tr> <th>実施場所</th> <th>工事請負費</th> <th>主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊科北学校 体育館</td> <td>53,719,200 円</td> <td rowspan="4"> ・ 吊り天井撤去 ・ 高天井照明の耐震化 ・ 高天井照明の LED 化 </td> </tr> <tr> <td>穂高北小学校 体育館</td> <td>29,160,000 円</td> </tr> <tr> <td>穂高西小学校 体育館</td> <td>33,847,200 円</td> </tr> <tr> <td>穂高西中学校 講堂</td> <td>100,548,000 円</td> </tr> </tbody> </table>				実施場所	工事請負費	主な内容	豊科北学校 体育館	53,719,200 円	・ 吊り天井撤去 ・ 高天井照明の耐震化 ・ 高天井照明の LED 化	穂高北小学校 体育館	29,160,000 円	穂高西小学校 体育館	33,847,200 円	穂高西中学校 講堂	100,548,000 円
実施場所	工事請負費	主な内容														
豊科北学校 体育館	53,719,200 円	・ 吊り天井撤去 ・ 高天井照明の耐震化 ・ 高天井照明の LED 化														
穂高北小学校 体育館	29,160,000 円															
穂高西小学校 体育館	33,847,200 円															
穂高西中学校 講堂	100,548,000 円															
	2. 校舎の長寿命化改良 構造体等の長寿命化による中長期的な維持管理等に係る経費縮減及び学校施設の機能・性能の向上を目的とした長寿命改良工事を平成 29 年度から引き続き穂高南小学校で実施した。なお、本工事の工期は令和 2 年度までの 4 年間の予定である。 ○穂高南小学校長寿命化改良工事（Ⅰ・Ⅱ期）工事請負費：329,000,000 円															
事業の課題及び方向性	体育館等の非構造部材耐震化工事については、学校の夏休みに工事が集中するなか、計画どおりに実施することができ、体育館の吊り天井の耐震化は平成 30 年度に完了予定で、照明器具の落下防止工事などの吊り天井以外の耐震化は令和 2 年度に完了予定である。 安曇野市内の小中学校 17 校のうち、令和元年度には 4 校が築 50 年を経過し、老朽対策が課題となっている。改築（建替え）に係る国の補助金等の支援が見込めないことから、長寿命化改良工事を活用して学校施設の老朽化対策を実施していく。															
自己評価	B															

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

事務事業	No.14	事務事業名： 給食事業	H30 年度決算額	303,541 千円
事業の目的	安曇野市学校給食理念（目標）に基づき、安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、地産地消及び食育の推進を図る。			
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 市内 17 の小・中学校に安全・安心で美味しい給食の提供 2 食育への取り組みと地産地消の推進 3 学校給食食材の安全確保の取り組み 4 学校給食費の徴収及び食材費支払い 			
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 市内 17 の小・中学校に安全・安心で美味しい給食の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 日の給食提供食数 約 8,280 食 ・ 年間の給食提供食数 約 1,656,000 食 ・ アレルギー対応食提供者数 39 人 2 食育への取り組みと地産地消の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月 1 回「安曇野の日」を設定し、地元食材を使用した献立の提供により地産地消を推進（年 12 回、4 センター共通） ・ 栄養教諭、栄養士等が学校訪問し、食育（栄養・食事のバランス・食の大切 さ等）の実施（市内 17 校） ・ 給食だよりの発行（給食提供日全クラス数発行、4 センター共通） 3 学校給食食材の安全確保の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 市独自の放射線測定の実施（H23. 11 月から） 全 315 食材（不検出） ・ 県への学校給食食材放射性物質検査の依頼（H24. 4 月から各センター月 1 回） 全 38 食材（不検出） 4 学校給食費の徴収状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 口座振替登録率 99.56% ・ 給食費収納率 99.70% 			
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稼働から 10 年以上を経過（北部センター除く）し、厨房設備・施設等の修繕費が増加している。また、食器の劣化が進み、入れ替えが必要である。 ・ 学校給食費の収納率向上に向けて対策を強化する。 ・ 安全・安心で栄養バランスのとれた給食を安定的に提供できるように管理運営を実施する。併せて、地元食材の使用拡大を進め地産地消推進と栄養教諭等の学校訪問を積極的に進め、食育の推進を図る。 			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.15	事務事業名： 青少年健全育成事業	H30 年度決算額	16,387 千円
事業の目的	青少年が心身ともに健やかに育ち、社会の一員としての使命と役割に自覚をもって自立する力を育成する。			
事業内容	1 成人式実施事業 2 青少年健全育成環境整備事務 3 青少年体験事業 4 子ども会育成会支援事務			
達成状況	1 成人式実施事業 (1)期日 平成 31 年 1 月 13 日 (2)対象者 1,091 人 (3)参加者 783 人 (4)その他 記念品としてタンブラーと記念写真を贈り、式典後、中学生時代のフォトムービーを鑑賞しながら交流会を開催した。 三郷中合唱部による市歌斉唱を行った。 2 青少年健全育成環境整備事務 (1)青少年センターにおいて、広報・啓発、青少年相談、街頭巡回、社会環境浄化活動に取り組んだ。 (2)啓発活動の一環として、KDD I 認定講師による講演会「スマホ・ケータイを安心安全に使うために」を開催した。 また、夏休み明けの青少年の悩みに対応するため、8 月 29 日、市内の小、中、高校の児童生徒全員に相談窓口周知のためチラシを配布した。 3 青少年体験事業 (1)こども映画教室 7 回 延 173 人 映画製作を行い子ども文化祭で発表 (2)親子体験ラボ 5 回 延 105 人 ハーバリウム、葉脈キーホルダー、勾玉、和風、手打ちうどん (3)ジュニアリーダー養成講座 2 回 延 78 人 レクレーション講座、三九郎組立講座 (4)子ども体験ショー 1 回 約 100 人 音楽に合わせ、体を動かして楽しめるコンサート (5)子ども文化祭 1 回 約 400 人 ステージ発表の部 10 団体 展示の部 5 団体 4 子ども会育成会支援 (1)地域での子ども達の自主的な活動を推進させ、また、地域育成会の活動の活発化を目的に子ども会育成会活動への補助を行った。 (2)基本補助金(平等割、均等割) 97 地区育成会 (補助金:4,688,100 円) (3)活性化補助金 42 地区育成会 (補助金:1,819,000 円) (4)安全共済会加入補助 7,906 人 (補助金:1,196,210 円)			
事業の課題及び方向性	・民法改正による成年年齢引下げのため、令和 4 年度の成人式の対象者について検討していく必要がある。 ・体験事業に参加しやすくするため、講座やイベント等の情報をとりまとめ、内容や開催時期が重ならないよう調整するとともに、それらの情報提供を行っていく。 ・地域子ども会育成会の活動を活発にするため、活性化補助金の更なる活用に向けて周知を図るとともに利用地区数の増加に努めていく。			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.17	事務事業名： 社会教育団体支援事業	H30 年度決算額	1,028 千円					
事業の目的	予算の範囲内で補助金を交付し、社会教育事業及び生涯学習事業の推進を図る。								
事業内容	1 社会教育推進事業及び芸術文化協会の運営への補助金交付								
達成状況	1 社会教育推進事業及び芸術文化協会の運営への補助金交付 安曇野市社会教育事業補助金交付要綱による社会教育推進団体への補助金								
	交付先		補助金額						
	安曇野市連合婦人会		90,000 円						
	安曇野市太鼓連盟		200,000 円						
	安曇野市鈴虫を育てる会		40,000 円						
	安曇野市囲碁・将棋大会		97,044 円						
	芸術文化協会		601,200 円						
	合計		1,028,244 円						
	各種団体での社会教育事業及び地域芸術文化協会の運営は円滑に行われ、適正に遂行されていた。								
	参考：芸術文化協会の状況（会員数） (人)								
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	比較 (29 : 30)
豊科	394	374	355	353	309	281	273	247	△26
穂高	672	575	548	517	500	572	647	622	△25
三郷	431	417	368	361	405	421	418	440	22
堀金	293	276	291	277	280	257	236	218	△18
明科	218	217	250	240	240	240	240	219	△21
合計	2,008	1,859	1,812	1,748	1,734	1,771	1,814	1,746	△68
事業の課題及び方向性	社会教育事業を推進するため、関係団体や各種事業の要望を把握するとともに従来事業の内容精査し、補助率の見直しを検討する。								
自己評価	C								

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.18	事務事業名： 放課後・家庭教育推進費	H30 年度決算額	6,869 千円																																																																														
事業の目的	放課後の児童の安全、安心な居場所として学校の施設を使用し、異年齢の子どもが交じりあって十分に遊び、さらに地域の人たちとも関わることで、たくましさや社会性を養う。																																																																																	
事業内容	1 放課後子ども教室実施事業																																																																																	
達成状況	<p>1 放課後子ども教室推進事業</p> <p>放課後の児童の安全、安心な居場所として、また、様々な体験や遊びを通じて異年齢間の交流を図り、地域の大人の見守りの中で思い切り遊ぶ機会を確保するため、10 小学校の施設を利用して、週 1 回の放課後子ども教室「わいわいランド」を開催した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>コーディネーター</th> <th>教育活動サポーター</th> <th>登録児童数</th> <th>開催日数</th> <th>延べ出席人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊科南</td> <td>3</td> <td>12</td> <td>92</td> <td>24</td> <td>1,931</td> </tr> <tr> <td>豊科北</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>92</td> <td>20</td> <td>1,697</td> </tr> <tr> <td>豊科東</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>509</td> </tr> <tr> <td>穂高南</td> <td>2</td> <td>16</td> <td>134</td> <td>29</td> <td>3,626</td> </tr> <tr> <td>穂高北</td> <td>2</td> <td>18</td> <td>128</td> <td>24</td> <td>2,145</td> </tr> <tr> <td>穂高西</td> <td>2</td> <td>11</td> <td>117</td> <td>28</td> <td>2,498</td> </tr> <tr> <td>三 郷</td> <td>2</td> <td>16</td> <td>153</td> <td>25</td> <td>2,363</td> </tr> <tr> <td>堀 金</td> <td>3</td> <td>14</td> <td>165</td> <td>29</td> <td>4,028</td> </tr> <tr> <td>明 南</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>60</td> <td>32</td> <td>1,568</td> </tr> <tr> <td>明 北</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>55</td> <td>31</td> <td>1,592</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>23</td> <td>138</td> <td>1,026</td> <td>262</td> <td>21,957</td> </tr> <tr> <td>H29 年度</td> <td>20</td> <td>161</td> <td>968</td> <td>325</td> <td>22,546</td> </tr> </tbody> </table>				学校名	コーディネーター	教育活動サポーター	登録児童数	開催日数	延べ出席人数	豊科南	3	12	92	24	1,931	豊科北	3	11	92	20	1,697	豊科東	2	10	30	22	509	穂高南	2	16	134	29	3,626	穂高北	2	18	128	24	2,145	穂高西	2	11	117	28	2,498	三 郷	2	16	153	25	2,363	堀 金	3	14	165	29	4,028	明 南	2	15	60	32	1,568	明 北	2	15	55	31	1,592	合 計	23	138	1,026	262	21,957	H29 年度	20	161	968	325	22,546
学校名	コーディネーター	教育活動サポーター	登録児童数	開催日数	延べ出席人数																																																																													
豊科南	3	12	92	24	1,931																																																																													
豊科北	3	11	92	20	1,697																																																																													
豊科東	2	10	30	22	509																																																																													
穂高南	2	16	134	29	3,626																																																																													
穂高北	2	18	128	24	2,145																																																																													
穂高西	2	11	117	28	2,498																																																																													
三 郷	2	16	153	25	2,363																																																																													
堀 金	3	14	165	29	4,028																																																																													
明 南	2	15	60	32	1,568																																																																													
明 北	2	15	55	31	1,592																																																																													
合 計	23	138	1,026	262	21,957																																																																													
H29 年度	20	161	968	325	22,546																																																																													
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業時間の増加や、水曜日のクラブ活動により、高学年の参加が困難になったが、地域ごとにミニ運動会やサッカー教室、囲碁教室等の講座とともに、自由遊び中心など特色ある活動を進めることができた。 ・コーディネーター、サポーターの固定化、高齢化傾向があるため、保護者世代の参加を進めていく必要がある。 																																																																																	
自己評価	B																																																																																	

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.19	事務事業名： 児童館運営事業	H30 年度決算額	219, 535 千円
事業の目的	国の地域子育て支援拠点事業、放課後児童健全育成事業を推進するため、また子育て支援の充実を図るため、児童館、児童クラブの運営及び施設整備を行う。			
事業内容	市内 9 か所の児童館の運営、市内 11 か所（穂高西小分室、三郷小空き教室含む）の児童クラブの運営を、指定管理者である安曇野市社会福祉協議会に委託し、子育て支援事業、子育て相談事業、地域ふれあい事業、青少年育成事業、放課後児童健全育成事業等の事業を実施する。			
達成状況	<p>1 児童館実施事業</p> <p>(1) 子育て支援事業 「キッズパーク」、「みんなあつまれ」、「お下がり会」</p> <p>(2) 子育て相談事業 「育児相談」、「子育て勉強会」</p> <p>(3) 地域ふれあい事業 「ふれあい農園」、「地域ボランティア」「児童館祭り」</p> <p>(4) 青少年育成事業 「チャレンジタイム」、「お楽しみ企画」</p> <p>(5) 放課後児童健全育成事業 「児童クラブ」、「障がい児児童クラブ」</p> <p>(6) 児童館来館者数 88, 205 人（児童クラブ利用者数を含まない）</p> <p>2 児童クラブ事業</p> <p>(1) 児童クラブ定員 通年 702 人、長期 375 人、合計 1, 077 人</p> <p>(2) 児童クラブ登録者 通年 609 人、長期 383 人、合計 992 人（最多時）</p> <p>(3) 延べ利用者数 109, 979 人（平成 29 年度延べ利用者数 97, 978 人）</p> <p>(4) 平成 30 年 9 月 10 日から、豊科南小学校内において余裕教室を利用して児童クラブを実施している。</p> <p>(5) エアコン設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊科中央児童館 集会室 ・穂高北部児童館 事務室 ・豊科南小児童クラブ室（3 部屋） ・穂高西小児童クラブ室（1 部屋） ・豊科東小長期児童クラブ室（図工室） 			
事業の課題及び方向性	<p>・児童クラブ事業は、利用ニーズの増加により 6 年生までの利用拡大や利用要件の緩和の検討とともに、小学校の余裕教室等の活用をはじめ施設整備を進める必要がある。</p> <p>・児童館・児童クラブ事業は、平成 30 年度から新たな 5 年間の指定管理により運営を行っているが、一層の子育て支援サービスの充実を図るために、今後も指定管理者との協議を密にし、事業の在り方等を検討していく。</p>			
自己評価	C			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.20	事務事業名： 中央公民館事業	H30 年度決算額	46,854 千円								
事業の目的	地域の社会教育機関として、社会教育法第 20 条で定める「市民の生活文化の進行と社会福祉の増進に寄与する」ため、『安曇野市公民館の理念』の下、安曇野市公民館を運営した。											
事業内容	<table border="0"> <tr> <td>1 公民館運営審議会</td> <td>2 公民館長会・公民館担当者会議</td> </tr> <tr> <td>3 第 12 回安曇野市公民館大会</td> <td>4 中央公民館報</td> </tr> <tr> <td>5 第 8 回安曇野市総合芸術展</td> <td>6 生涯学習情報～Link～</td> </tr> <tr> <td>7 各 5 分館における講座等</td> <td>8 地区公民館支援事業</td> </tr> </table>				1 公民館運営審議会	2 公民館長会・公民館担当者会議	3 第 12 回安曇野市公民館大会	4 中央公民館報	5 第 8 回安曇野市総合芸術展	6 生涯学習情報～Link～	7 各 5 分館における講座等	8 地区公民館支援事業
1 公民館運営審議会	2 公民館長会・公民館担当者会議											
3 第 12 回安曇野市公民館大会	4 中央公民館報											
5 第 8 回安曇野市総合芸術展	6 生涯学習情報～Link～											
7 各 5 分館における講座等	8 地区公民館支援事業											
達成状況	<p>1 公民館運営審議会 安曇野市公民館条例に基づき公民館の各種事業への指導・助言をいただくため、公民館運営審議会（委員 14 人）を年 3 回開催した。</p> <p>2 公民館長会・公民館担当者会議（各毎月 1 回開催） 各種講座や公民館の管理運営について協議し、事業の推進及び管理体制の改善を図った。</p> <p>3 第 12 回安曇野市公民館大会 期日：5 月 20 日（日） 会場：豊科公民館大ホール 参加者数：337 人 内容：公民館活動功労者表彰 5 人、地区公民館報表彰 3 点 事例発表 下押野地区公民館 講演会「未来を拓く地域づくり」 講師 福島 明美さん</p> <p>4 中央公民館報 市民 5 人の編集委員により地域で活躍しているリーダーやグループ、地区公民館の活動紹介等の記事を掲載し、年 6 回発行した。</p> <p>5 第 8 回安曇野市総合芸術展 期間：3 月 7 日（木）～20 日（水） 会場：豊科交流学習センター「きぼう」 展示作品数：111 点（絵画・写真・工芸・書道・彫刻など） 来場者数：902 人</p> <p>6 生涯学習情報～Link～ 公民館や交流学習センター、体育館等の施設利用案内やリーダーバンクなどの情報を掲載した「生涯学習情報～Link～プレ号」を 300 部発行し、本庁舎や各公民館等に設置した。また、市ホームページへ掲載し広く周知した。</p> <p>7 各 5 分館における講座等 豊科、穂高、三郷、堀金、明科の 5 分館において、ふるさと講座や地場産食材を使った料理教室など各地域の特徴を活かした講座を実施した。</p> <p>8 地区公民館支援事業 地区公民館活動補助金として 98 地区公民館を対象に 30,825,000 円の補助を行い、地区公民館活動を支援した。また、地区公民館建設補助金として、嵩下地区公民館 9,144,000 円、上長尾地区公民館 2,000,000 円、</p>											

	上堀地区公民館 381,600 円の補助を行った。
事業の課題及び方向性	「安曇野市公民館の理念」の下、各公民館の運営体制の統一を図るため、館長会や担当者会議で情報を共有しながら随時調整を行っていく必要がある。
自己評価	B

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.21	事務事業名： 交流学习センター等事業	H30 年度決算額	4,308 千円
事業の目的	市民の「交流の場」「学習の場」、さらには地域交流の拠点として、一層の市民の利用促進を図り、安曇野市穂高交流学习センター、安曇野市豊科交流学习センター、安曇野市三郷交流学习センター、安曇野市明科学習館の4施設の適正かつ円滑に管理運営する。			
事業内容	生涯学習推進計画及び文化振興計画の実現のため、次代の文化活動の担い手の育成や、親子で参加できる体験・学習できるような文化活動等による教育の機会の充実を図るとともに、文化芸術の鑑賞の機会と創作活動・発表の場の提供として、自主文化事業、貸館業務のほか、団体等との共催事業にも取り組んだ。			
達成状況	<p>○主な自主事業</p> <p>1 新進音楽家演奏会 安曇野市で活躍を希望する若手音楽家の発掘のため、公開オーディションを開催し、演奏の機会の提供と市民が身近に音楽芸術に触れられる機会を提供した。</p> <p>(1)第8回あづみの新進音楽家公開オーディション 開催日7月28日(土) 参加者 ジュニアの部11組15人 一般の部 3組5人</p> <p>(2)選出者によるコンサート ア Holiday Concert in Mirai 2018 開催日12月22日(土) 参加者 3組5人 入場者150人 イ 第4回あづみジュニアクラシックコンサート 開催日3月23日(土) 参加者5組8人 入場者115人</p> <p>(3)第7回までのオーディション選出者によるコンサート ア あづみの新進音楽家コンサート(全4回) 開催日①6月30日(土) ②9月22日(土) ③10月20日(土) ④11月24日(土) 入場者 合計240人 イ 0歳からのミニコンサート(全4回) 開催日①5月30日(水) ②8月17日(金) ③11月13日(火) ④3月6日(水) 入場者 合計627人</p> <p>2 熊井啓監督顕彰事業 「日本の熱い日々 謀殺・下山事件」上映会・熊井明子氏講演会 開催日2月3日(日) 入場者 午前の部132人 午後の部148人</p>			
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・オーディション一般の部の募集について、これまで市内在住者、又は出身者としていたが、近隣市町村も範囲入れるなど、再度見直しが必要である。 ・新進音楽家の活動の場の提供及び展示等の充実を図り、より多くの市民に優れた文化芸術を提供する。 			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.22	事務事業名： 図書館活動の推進事業	H30 年度決算額	172,450 千円				
事業の目的	市民へ質の高い情報を提供できる「学習センター」、「情報センター」、「文化センター」として多様化する市民の「学び」のニーズに応える図書館の確立を進めている。							
事業内容	1 新鮮な資料や最新の情報の市民への提供 2 さまざまな「学び」の場としての図書館サービスの充実 3 「地域の教育力」を高める活動の推進 4 図書館利用に障がいのある方々への支援 5 安曇野市の歴史文化の伝承 6 市民の調査・研究支援体制の強化援助							
達成状況	1 第2次安曇野市図書館基本計画（平成30年3月策定）のサービス目標値と平成30年度末の状況							
	項目	蔵書数	年間利用者数	市民1人あたりの貸出点数	団体貸出点数	郷土資料蔵書数	レファレンスサービス利用数	
	目標値	422,000	220,300	9.0	28,000	38,000	7,280	
	H30 年度末	430,638	233,119	8.3	29,385	32,538	6,436	
	※年間利用者数：資料貸出の延べ人数と講座等参加者の合計人数							
	※人口：97,635人（平成31年4月1日現在）							
	(2) 館別							
	項目	総蔵書点数	登録者数	個人貸出点数	団体貸出点数	予約件数	レファレンスサービス利用数	
	中央	H30 年度末	211,705	24,618	464,091	12,164	15,523	2,279
		H29 年度末	207,847	23,491	477,488	9,907	13,163	2,049
豊科	H30 年度末	85,529	11,123	149,613	8,294	8,636	1,687	
	H29 年度末	84,022	10,594	155,476	8,525	7,262	1,413	
三郷	H30 年度末	44,205	4,078	117,953	3,882	4,824	913	
	H29 年度末	39,019	3,554	36,176	2,036	2,113	331	
堀金	H30 年度末	40,675	2,261	55,495	2,722	2,873	137	
	H29 年度末	36,034	2,147	59,333	3,411	3,383	28	
明科	H30 年度末	48,524	3,942	28,183	2,323	2,504	1,420	
	H29 年度末	48,611	3,841	29,965	3,430	2,361	1,043	
合計	H30 年度末	430,638	46,022	815,335	29,385	34,360	6,436	
	H29 年度末	415,533	43,627	760,053	27,309	28,282	4,864	

事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・明科図書館のIC化により、市内すべての公共図書館のIC化が終了した。これにより、図書館資料の管理面での合理化と自動貸出機での貸出が可能となり、利便性が向上した。 ・更なる利用促進のため、市民のニーズに合わせた資料収集や魅力あるイベントの充実を図るとともに、図書館活動の周知を積極的に行い、図書館だよりや市広報紙、ホームページやツイッターなどの様々な媒体を活用しながら情報発信をしていく必要がある。
自己評価	B

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.23	事務事業名： 人権教育推進事業	H30 年度決算額	1,914 千円
事業の目的	安曇野市人権教育・啓発推進計画の基本目標と基本方針に基づき、人権問題の現状と課題に対し、あらゆる場を通じた人権教育・啓発を推進する。			
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 人権教育推進委員会及び人権教育指導員合同会議 2 企業人権教育推進協議会 3 地域人権教育推進協議会、学社連携事業、地区人権学習会支援 			
達成状況	<p>安曇野市人権教育・啓発推進計画に基づき、平成 30 年度は「様々な人権に関する問題」と「同和問題」を重点に掲げ、人権教育の推進に向けて全市的に啓発事業に取り組むとともに、各地域の人権教育推進協議会等と地区公民館での取り組みを推進した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人権教育推進委員会及び人権教育指導員合同会議 学校、地域、家庭、職場が一体となった人権教育推進に向けて、人権教育推進委員会小委員会、人権教育推進委員及び人権教育指導員の合同会議をそれぞれ 2 回開催し、合同会議では、研修として講演会を実施した。 2 企業人権教育推進協議会 企業人権教育推進協議会は設立 9 年目となり、35 企業 63 事業所(H31 年 3 月現在)が加入している。本年度は総会、理事会に加え、2 回の啓発講演会を実施した。 3 地域人権教育推進協議会、学社連携事業、地区人権学習会支援 人権教育推進協議会の開催のほか学社連携事業として、小中学校人権教育推進協議会と連携し、地域ごとに人権教育推進委員・指導員が授業参観、講演会、懇談会などへ参加した。 また、地区公民館での人権学習会開催を支援し、地区の現状に応じたテーマで 97 地区公民館において実施された。高齢者、女性、子どもの人権などの人権問題について幅広い学習が行われた。 			
事業の課題及び方向性	安曇野市人権教育・啓発推進計画の基本目標と基本方針に基づき、人権問題の現状と課題に対し、あらゆる場を通じた人権教育・啓発を継続的に推進する必要がある。			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.24	事務事業名： 人権啓発事業	H30 年度決算額	1,809 千円
事業の目的	<p>市内小学校（10 校）の 4 年生が共通の体験を積み、安曇野に対する郷土愛や児童同士の絆を深め、人権について学習することを目的に「安曇野市 1/2 成人記念 人権・平和特別授業～kizuki～」を開催した。</p> <p>また、人権尊重に対する意識を高めるため、「安曇野市人権尊重作文集～kiseki～」の作成に取り組んだ。</p>			
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 安曇野市 1/2 成人記念 人権・平和特別授業～kizuki～ 2 安曇野市人権尊重作文集～kiseki～ 			
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 安曇野市 1/2 成人記念 人権・平和特別授業～kizuki～ 期日：10 月 4 日（木） 会場：豊科公民館大ホール 内容：市歌斉唱 児童発表「人権の花運動」 ミュージカル鑑賞「とべないホテル」 参加児童数：829 人 2 安曇野市人権尊重作文集～kiseki～ 人権尊重の意識を深めるため、次代を担う小中学生（小学 3 年生～中学 3 年生）を対象に人権尊重作文を募集し、選考された作文により人権尊重作文集～kiseki～を作成した。作文集は小中学校や人権教育推進委員・指導員に配布し、人権学習・研修の資料として活用した。 			
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカル上演が可能な施設である豊科公民館ホールで実施しているが、収容人数が限られているため 5 校ずつ 2 回に分けて実施している。 ・このため、市内 10 校の 4 学年全児童が一堂に会せるような事業内容の見直しとともに、学校側の負担軽減を図る必要がある。 			
自己評価	C			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.25	事務事業名： 体育団体等支援事業	H30年度決算額	11,075千円
事業の目的	市民のスポーツ振興を担う体育協会及びスポーツ少年団の活動助成や、競技力向上を目指す選手及び団体への激励金を交付することにより、市民の競技スポーツ活動の活性化を図る。			
事業内容	1 体育協会事業支援（対象事業費の2分の1以内で予算の範囲内の補助） 2 スポーツ少年団事業支援（対象事業費の3分の2以内で予算の範囲内の補助） 3 全国大会以上のスポーツ等大会に出場する個人・団体への激励金交付			
達成状況	<p>1 体育協会事業支援《団体数：72団体 登録者数：5,841人》 市民のスポーツ振興、健康体力づくりの推進、競技力向上に向けた事業に対し、体育協会活動への補助を行った。</p> <p>【主な内容】</p> <p>(1) スポーツ教室(市体協・加入団体独自主催 計23教室、述べ4,995名参加)を開催し、スポーツの普及、向上を図ることができた。</p> <p>(2) 一般市民を対象とした健康体力づくり事業49大会、育成強化事業の各種競技98大会を実施や研修会、救急救命講習会実施により、指導者の育成、審判技術の向上を図ることができた。</p> <p>2 スポーツ少年団事業支援《団体数：67団体 登録者数：1,720人》 青少年スポーツ活動を通じた青少年健全育成及び交流を目的に、スポーツ少年団活動への補助を行った。</p> <p>【主な内容】</p> <p>(1) 平成30年度結団式に54単位団 約300名参加し、基本動作である「走」を中心としたトレーニングを体験した。</p> <p>(2) 小学4年・6年対象に「運動適性テスト」を実施し、12単位団 94名の参加があり、発達期の身体の動きやスポーツの適性を知る機会となった。</p> <p>3 各種競技会及び発表会出場者激励金 件数：103件（内訳：全国大会：97件、世界大会：6件）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>各スポーツ団体については、団体離れ、加入者も減少する中で、自主財源の確保が厳しい状況にある。中核的に市のスポーツ振興を担う各スポーツ団体は、市民スポーツの活性化に重要な役割を果たしているため、今後も協議しながら事業内容に合った適正な補助金額の支出が必要と考える。</p> <p>また、全国大会以上の競技出場者が増加する一方、スポーツ少年団の指導者の高齢化やなり手不足の現状から、今後も指導者の増加に向け、資格取得の支援や研修会などの指導者の育成に対する取り組みが必要である。</p>			
自己評価	C			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.26	事務事業名： スポーツ振興事業	H30 年度決算額	9,333 千円																																																
事業の目的	<p>幼児期から身体を動かす楽しさや自発的に遊ぶ習慣を身につけること、また、初心者が運動を継続していくきっかけづくりとしてスポーツ教室等を実施し、スポーツ実施率の向上を目指す。また、スポーツを通しての交流や連帯感を共有し、スポーツの推進を図ることを目的とした「安曇野市民スポーツ祭」を開催する。</p>																																																			
事業内容	<p>1 スポーツ教室の開催 2 市民スポーツ祭の開催 3 市町村対抗駅伝大会・長野県縦断駅伝大会出場に伴う運営協力</p>																																																			
達成状況	<p>1 スポーツ教室の開催 (1) 子どもを対象とした教室 (教室数：26 教室 参加延べ数：10,940 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主な教室名</th> <th>区分</th> <th>定員</th> <th>参加率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①親子スポーツ教室</td> <td>親子(未就園児)</td> <td>40 組</td> <td>58%</td> </tr> <tr> <td>②わんぱく GYM 教室 (2 教室×2 回)</td> <td>就園児:年中・年長</td> <td>各 25 人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>③有森裕子ランニング教室</td> <td>小学生</td> <td>120 人</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>④ファミリースポーツカフェ</td> <td>主に親子</td> <td>240 人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>⑤コオディネーション幼保指導者派遣事業</td> <td>就園児:年中・年長</td> <td>6,551 人</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 18 歳以上を対象とした教室 (教室数：19 教室 参加延べ数：2,654 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主な教室名</th> <th>区分</th> <th>定員</th> <th>参加率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①インターバル速歩講座</td> <td>50 歳以上</td> <td>90 人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②ピラティス教室 (2 回)</td> <td>18 歳以上</td> <td>各 35 人</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>③スポーツ吹矢教室 (2 回)</td> <td>18 歳以上</td> <td>各 20 人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>④障がい者スポーツ体験会</td> <td>障がいの有無に関わらず</td> <td>76 人</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>⑤体力測定</td> <td>20 歳以上</td> <td>180 人</td> <td>98%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※参加率・・・定員に対する教室参加人数</p> <p>2 市民スポーツ祭の開催 市民スポーツ祭実行委員会を組織し、開催内容の決定や運営を行った。 6 月 24 日 (日) 総合開会式、スポーツ交流会、体力測定に約 512 人が参加 6 月～12 月にかけて種目別競技会 (17 種目) に 2,250 人が参加</p> <p>3 市町村対抗駅伝大会・長野県縦断駅伝大会出場に伴う運営協力など</p>				主な教室名	区分	定員	参加率	①親子スポーツ教室	親子(未就園児)	40 組	58%	②わんぱく GYM 教室 (2 教室×2 回)	就園児:年中・年長	各 25 人	100%	③有森裕子ランニング教室	小学生	120 人	74%	④ファミリースポーツカフェ	主に親子	240 人	100%	⑤コオディネーション幼保指導者派遣事業	就園児:年中・年長	6,551 人	—	主な教室名	区分	定員	参加率	①インターバル速歩講座	50 歳以上	90 人	100%	②ピラティス教室 (2 回)	18 歳以上	各 35 人	97%	③スポーツ吹矢教室 (2 回)	18 歳以上	各 20 人	100%	④障がい者スポーツ体験会	障がいの有無に関わらず	76 人	76%	⑤体力測定	20 歳以上	180 人	98%
主な教室名	区分	定員	参加率																																																	
①親子スポーツ教室	親子(未就園児)	40 組	58%																																																	
②わんぱく GYM 教室 (2 教室×2 回)	就園児:年中・年長	各 25 人	100%																																																	
③有森裕子ランニング教室	小学生	120 人	74%																																																	
④ファミリースポーツカフェ	主に親子	240 人	100%																																																	
⑤コオディネーション幼保指導者派遣事業	就園児:年中・年長	6,551 人	—																																																	
主な教室名	区分	定員	参加率																																																	
①インターバル速歩講座	50 歳以上	90 人	100%																																																	
②ピラティス教室 (2 回)	18 歳以上	各 35 人	97%																																																	
③スポーツ吹矢教室 (2 回)	18 歳以上	各 20 人	100%																																																	
④障がい者スポーツ体験会	障がいの有無に関わらず	76 人	76%																																																	
⑤体力測定	20 歳以上	180 人	98%																																																	
事業の課題及び方向性	<p>・1 月に安曇野市スポーツ大使の委嘱記念事業として、小学生を対象とした「有森裕子ランニング教室」においては、メダリストから直接伝えられたことにより質の高い深い体験ができた。今後もアスリートから学ぶ機会を設け、選手発掘や選手育成に力を入れていく必要がある。</p> <p>・未就園児を対象とした親子対象のスポーツ教室は、少子化や年々未就園児の保育施設等の入園児数の増により家庭保育の減少が予想され、参加率が減少傾向にある。募集方法を工夫するとともに参加しやすい環境に配慮しながら開催していく。</p>																																																			
自己評価	B																																																			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.27	事務事業名： 文化芸術振興事業	H30 年度決算額	6,882 千円
事業の目的	<p>子どもや高齢者、障がいのある人など、全ての市民がすぐれた文化芸術に接することができるよう、展覧会やコンサートなどの内容を充実するとともに鑑賞しやすい環境づくりを進める。</p> <p>市民の文化芸術活動が、文化芸術を受容・鑑賞するだけでなく、創作や発表へと発展し自己実現を図ることができる環境づくりを推進する。</p>			
事業内容	<p>「文化振興計画」に掲げられた諸施策の実現に向け諸事業を実施した。</p> <p>(1) 東京藝術大学との交流事業の開催 第1回：6月9日(土)・10日(日) 第2回：11月10日(土)・11日(日) 第3回：2月9日(土)・10日(日) 小中学校合同吹奏楽祭：10月6日(日)</p> <p>(2) 能楽教室の開催 6月26日(火)：三郷小学校 6月27日(水)：堀金中学校</p> <p>(3) 文化講演会の開催 テーマ「日本美術と文化財の保存と活用」 (講師：白洲信哉氏) 3月16日(土)</p> <p>(4) ちくりに生きものみらい基金充当事業</p>			
達成状況	<p>(1) 東京藝術大学との交流事業 参加生徒数 272人(目標150人) 合同コンサート来場者数350人(目標400人) 小中学校合同吹奏楽祭：1,500人</p> <p>(2) 能楽教室 鑑賞者数920人</p> <p>(3) 文化講演会 来場者数80人</p> <p>(4) ちくりに生きものみらい基金充当事業 実施件数11件、参加者数8校464人</p>			
事業の課題及び方向性	<p>・平成29年度に策定した「第2次安曇野市文化振興計画」に基づき、事業内容の充実や発展に向けて推進していきたい。</p>			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.28	事務事業名： 諸団体との協働事業	H30 年度決算額	3,235 千円
事業の目的	安曇野の風土と先人たちの営みによって培われ育まれてきた文化を土台に、新たな安曇野の文化、個性あふれる魅力的な文化を創造していくために、必要な環境の整備と文化を支える協働の仕組みづくりを推進する。			
事業内容	<p>諸団体への補助、協働による事業実施などを通じて、市民が多様な文化芸術に親しむ機会を創出し、豊かで潤いある市民生活の実現を目指した。</p> <p>(1) 第 19 回安曇野紙ヒコーキ競技大会 4 月 8 日(日)報償費：64,656 円</p> <p>(2) 第 14 回あづみの公園早春賦音楽祭 5 月 4 日(金)補助金：1,900,000 円</p> <p>(3) 第 55 回童謡まつり 5 月 5 日(土) 補助金：500,000 円</p> <p>(4) 第 28 回信州安曇野能楽鑑賞会 8 月 25 日(土) 補助金：2,700,000 円</p> <p>(5) 『安曇野文化』刊行 第 27～30 号発行 補助金：1,900,000 円</p> <p>(6) 美術館博物館連携事業</p> <p>ア 美術館等連携事業印刷物等作成・年間行事予定表デザイン印刷業務委託料 174,744 円</p> <p>イ スタンプラリー・ギャラリートークリレー・学校ミュージアムほか 学校ミュージアム 11 月 29 日(木)：穂高西中学校 12 月 6 日(木)：穂高南小学校</p> <p>(7) 安曇野市古民家調査(信州大学工学部)：496,468 円</p> <p>(8) 平成 27・29 年に協働事業として制作した「よみがえる安曇野」第 1・2 集について、出前講座メニューとして実施。</p>			
達成状況	<p>諸団体との協働事業</p> <p>(1) 第 19 回安曇野紙ヒコーキ競技大会 参加者数 22 人</p> <p>(2) 第 14 回あづみの公園早春賦音楽祭 来場者数 18,966 人</p> <p>(3) 第 55 回童謡まつり 来場者数 450 人</p> <p>(4) 第 28 回信州安曇野能楽鑑賞会 来場者数 454 人</p> <p>(5) 『安曇野文化』刊行 第 27～30 号発行</p> <p>(6) 美術館博物館連携事業</p> <p>ア 美術館等連携事業印刷物等作成 市立美術館・博物館の年間行事予定一覧表を全校児童・生徒に配布。</p> <p>イ ギャラリートークリレー・学校ミュージアムほか、文化庁の補助金を得て、市内公私立の美術館博物館で実行委員会を組織して諸事業を実施。児童の利用促進に結び付けることができた。計 2,512 人</p> <p>(7) 安曇野市民家調査(信州大学工学部)</p> <p>ア 本棟造りの成立過程の調査。現存する古民家の詳細調査結果と、古文書にみる建築部材・樹種等の比較から、他地域のとの違いを検証。</p> <p>(8) 「よみがえる安曇野」上映会 43ヶ所 約 1300 人が鑑賞</p>			
事業の課題及び方向性	・各事業とも、合併以前より各町村が行ってきた文化事業を継続して行っており、マンネリ傾向にある。「信州安曇野薪能事業」は会場となる龍門淵公園周辺の整備工事が終わり、今後、屋外での薪能公演とするか検討が必要で			

	ある。	
自己評価	B	

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.29	事務事業名： 財政支援団体への補助	H30 年度決算額	6,696 千円
事業の目的	<p>安曇野の風土と先人たちの営みによって培われ育まれてきた文化を土台に、新たな安曇野の文化、個性あふれる魅力的な文化を創造していくために、必要な環境の整備と文化を支える協働の仕組みづくりを推進する。</p> <p>安曇野市の文化振興の一翼を担う組織として、市が出捐する公益財団法人安曇野文化財団の自主事業の充実を図る。</p>			
事業内容	<p>財政支援団体への補助金交付</p> <p>(1) 公益財団法人安曇野文化財団運営補助 補助金：5,396,000 円</p> <p>(2) 一般財団法人井口喜源治記念館運営補助 補助金：1,300,000 円</p>			
達成状況	<p>1 財政支援団体の活動状況</p> <p>(1) 公益財団法人安曇野文化財団運営補助 生活工芸品の管理・活用、財団の管理運営（事務局業務）を実施した。</p> <p>(2) 一般財団法人井口喜源治記念館運営補助 井口喜源治の遺産を大切に保管・管理し、各種事業を実施した。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>・財政支援団体の活動にあたっては、事業内容に合った適正な補助金額の支出が必要である。事業実施にあたり、各団体と連絡を密にし、効果的な事業推進を図る。</p>			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

事務事業	No.30	事務事業名： 博物館・美術館等の管理運営	H30年度決算額	188,342千円																																									
事業の目的	市民ニーズに沿い、各施設の個性や特徴を活かした魅力ある企画を実現できるよう、利用形態や運営方針の改善に努めるほか、施設間の連携強化を図る。 市民が幅広く文化の魅力を理解し、豊かな感性や想像力を養うことができるように、学習・体験機会の充実を図る。																																												
事業内容	<p>1 豊科近代美術館・田淵行男記念館・飯沼飛行士記念館・穂高陶芸会館・臼井吉見文学館・高橋節郎記念美術館・豊科郷土博物館・貞享義民記念館・穂高郷土資料館・文書館等の管理運営を行う。</p> <p>2 博物館・美術館等の管理運営、資料の収集については下記で審議。 (1) 博物館協議会 登録博物館4館及び類似施設5館の管理運営状況等について協議。全3回 (2) 美術資料等選定委員会：美術資料の収集について協議。全2回</p> <p>3 「新市立博物館構想」を策定し、今後の安曇野市の博物館等の方向性を規定。</p>																																												
達成状況	<p>1 博物館等の運営状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>運営</th> <th>指定管理料</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊科近代美術館</td> <td rowspan="4">(公財)安曇野文化財団</td> <td>32,830,000円</td> <td>26,188人</td> </tr> <tr> <td>田淵行男記念館</td> <td>18,956,000円</td> <td>8,511人</td> </tr> <tr> <td>飯沼飛行士記念館</td> <td>2,110,000円</td> <td>932人</td> </tr> <tr> <td>穂高陶芸会館</td> <td>7,344,000円</td> <td>2,986人</td> </tr> <tr> <td>臼井吉見文学館</td> <td>ほたるぶくろの会</td> <td>2,185,000円</td> <td>503人</td> </tr> <tr> <td>高橋節郎記念美術館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>12,850人</td> </tr> <tr> <td>豊科郷土博物館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>6,448人</td> </tr> <tr> <td>貞享義民記念館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>4,860人</td> </tr> <tr> <td>穂高郷土資料館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>1,114人</td> </tr> <tr> <td>文書館</td> <td>直営</td> <td></td> <td>989人※</td> </tr> </tbody> </table> <p>※研修会・内覧会・講座・講演会・電話での相談等を含む利用者数(10/1～)</p> <p>2 目標数値等 (1) 高橋節郎記念美術館 貸出施設(主屋・南の蔵)の稼働率(年間実使用時間/使用可能時間)：27.78% (2) 貞享義民記念館 貸出施設(企画展示室)の稼働率(年間実使用日数/使用可能日数)：77.46% 貸出施設(研修室)の稼働率(年間実使用時間/使用可能時間)：13.89%</p>				施設名	運営	指定管理料	入館者数	豊科近代美術館	(公財)安曇野文化財団	32,830,000円	26,188人	田淵行男記念館	18,956,000円	8,511人	飯沼飛行士記念館	2,110,000円	932人	穂高陶芸会館	7,344,000円	2,986人	臼井吉見文学館	ほたるぶくろの会	2,185,000円	503人	高橋節郎記念美術館	直営	-	12,850人	豊科郷土博物館	直営	-	6,448人	貞享義民記念館	直営	-	4,860人	穂高郷土資料館	直営	-	1,114人	文書館	直営		989人※
施設名	運営	指定管理料	入館者数																																										
豊科近代美術館	(公財)安曇野文化財団	32,830,000円	26,188人																																										
田淵行男記念館		18,956,000円	8,511人																																										
飯沼飛行士記念館		2,110,000円	932人																																										
穂高陶芸会館		7,344,000円	2,986人																																										
臼井吉見文学館	ほたるぶくろの会	2,185,000円	503人																																										
高橋節郎記念美術館	直営	-	12,850人																																										
豊科郷土博物館	直営	-	6,448人																																										
貞享義民記念館	直営	-	4,860人																																										
穂高郷土資料館	直営	-	1,114人																																										
文書館	直営		989人※																																										
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> 公文書や古文書等の貴重な資料を有効に活用するための文書館が平成30年10月に開館した。指定管理委託期間の更新にあたり、次年度より臼井吉見文学館を直営とし、高橋節郎記念美術館に指定管理者制度を導入する。 施設間の連携強化を図りながら、「新市立博物館構想」に基づき、引き続き管理運営体制の見直しや、一部の施設の統廃合について検討する。 																																												
自己評価	B																																												

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

【学識経験者による個別の事務事業に対する意見、提言等】

No.	事務事業	意見・要望等
1	いじめ・不登校対策事業	<p>いじめの把握は重要であり、学校生活だけではなく、例えば子どもたちが参加している社会体育や各種教室の場において、それぞれの指導者等と連携を図りながら、いじめ等の事例が発見されれば市教育委員会に報告していただくような仕組みを関係部局とともに検討してほしい。</p> <p>外国籍児童への日本語学習支援とともに、保護者に対して日本文化、習慣等を理解し、教えられるような仕組み・体制づくりを検討してほしい。</p> <p>本市の事例ではないが、小学校の算数の授業において教師が出した問題が解けない子どもに対し、後ろの席の子どもが答えを教えてあげたところ、問題が解けなかった子どもが泣き出し、教師は答えを教えた子どもに対し「答えを教えたことはいじめにあたる」と発言したと聞く。</p> <p>答えられずとも懸命に問題に取り組んだ子どもをほめるとともに、答えを教えた子どもの親切心に配慮した教師の指導が必要ではないかを感じる。答えを教えた行為は親切心からと思料され、将来、その子どもにとって親切心は不要となってしまうか心配である。</p> <p>いじめの定義が厳格化され、教師にとっても対応が難しい場面が増えることが想定されるが、常に子どもの気持ちに寄り添った現場での対応を望む。</p> <p>SNSによる誹謗中傷など、「ネットいじめ」が社会問題化している。本市においても、使用実態やトラブル等について再調査を行い、市として適切な対応を講じていく必要がある。</p>
2	教育支援センター運営事業	<p>早い段階で子ども発達障害等に気づき、家族の大きな悩みとなる前に家庭内で対処方法を学んだうえで子どもに接することが、その子にとって幸せにつながる。現在の相談・支援体制を一層充実させていってほしい。</p>

		<p>発達障害のある子どもへの支援に関しては、保健医療部、福祉部及び教育委員会事務局が主にかかわっているが、それぞれの部局が持つ情報（資料）を共有でき、発達段階に応じた支援が行えるような仕組みを検討する必要がある。あわせて、発達障害を持つ子どもたちの理解と支援に欠かせない WISC（知能）検査が迅速に行えるよう体制整備の検討も必要である。</p>
5	学校加配職員及びスクールソーシャルワーカー等の配置・派遣事業	<p>小中学校への市費による各種支援員の配置（加配職員）は、円滑な学校運営において欠かせない存在である。今後も継続するとともに、この加配の状況をさらに市民に知らしめていただきたい。</p>
8	コミュニティスクール事業	<p>私も経験があるが、地域の大人が学校に入り、自分の持つ技能等を子どもたちに教えることは、教える側にとっても「やりがい、生きがい」を感じることができる貴重な機会となっている。地域の方が未来を担う子どもたちへのボランティア精神を一層高めていくためにも、学校応援隊等に対する謝礼は無償化が望ましいと考える。</p>
		<p>学校応援隊に係る人材バンクへの登録化にあたっては、コミュニティスクール事業の支援メニューに含まれないような特技・技能も調査・登録してはどうか。このことにより、学校側の需要に幅広く応えられることが期待できる。</p>
		<p>私の近所でも、市外等から小学校低学年の子どもを持つ家族が入学式に合わせて転入してくる例が増えている。こうした中、近所の小学2年生の女兒が自力で下校中、自分の家の方角がわからず道に迷ってしまったことがあった。幸いにも子どもは無事であったが、一歩間違えば重大な事故・事件につながる可能性がある。</p> <p>転入の際には、小さな子どもに対し、家庭などであらかじめ通学路等の地理を把握させておくことが重要である。あわせて、入学間もない時期や犯罪発生、自然災害等の緊急時において、地域の方が通学路の要所に立ち、子どもたちを見守ることができる仕組みづくりを検討してほしい。</p>
9	中学生議会事業	<p>選挙権年齢が18歳に引き下げられたことや、子どもたちがどのように社会から守られているかを自身が知るなど、政治や社会に関心を持つためにも中学生議会の取り組みは評価できる。</p> <p>今後、中学生議会に参加する生徒の増とともに、取り上げた議題を生徒たちがどのように、だれに還元していくのか、さらに検討してほしい。</p>

		<p>中学生議会での生徒の意見・提言はもとより、それに対する市長はじめ市の幹部の答弁も市政を理解するうえで大変参考になる。中学生議会におけるやり取りを、広く市民に知ってもらえるよう一層努力してほしい。</p>
11	入学準備金貸付制度	<p>入学準備金貸付制度利用者が年々減少傾向にある。この状態が今後も続けば、要因等を検証するとともに、借り入れ条件、手続等を見なおすことも必要ではないか。</p>
12	学校安全対策事業	<p>本市においても空き家が問題となっているが、例えば通学路上に空き家が増えれば、ハチの巣に気づくのが遅れるなど、子どもたちにとっても危険性が増すことになる。このため、市長部局とも連携協力しながら、空き家問題に起因する子どもへの被害防止に取り組んでほしい。</p> <p>また、本市においても歩車分離式信号機が設置されている交差点(スクランブル交差点)が増えてきている。予算等の事情はあると思うが、子どもたちの安全確保の観点から、学校近くの大きな交差点では歩車分離式信号機を設置するよう関係機関に働きかけてほしい。</p>
13	小・中学校施設改修事業	<p>小学校へのエアコン設置は、子どもの学習環境の向上とともに、学校の授業等を通して、節電の大切さなど地球環境への負荷軽減を学ぶ機会としてほしい。</p> <p>また、本市では、そのまま飲めるような地下水を水洗トイレに使用している。このことが「当たり前」でなく、機会をとらえながら恵まれた本市の自然環境に感謝の心を持ち、水資源の大切さを子どもに教えてほしい。</p>
14	給食事業	<p>ごみ減量の観点からも、できるだけ「食べ残し」が発生しないよう今後も努力してほしい。</p> <p>また、給食費の徴収について努力されていると思うが、徴収率の一層の向上に努めていただきたい。</p>
15	青少年健全育成事業	<p>子どものスマホ等の利用について、子どもたちがどのようなことをしているか親はわからない部分がある。スマホ等の安全な使用方法等の講演会を、親には親に対する内容・子には子供に対する内容でというように、別々に機会を作っていただければいいのではないか。その際の実施する時間帯は、勤めている方も多くいるので保護者の集いやすい時間帯で実施いただきたい。(また、1回だけでなく何回か開催いただきたい)</p>
		<p>成人式の記念品については予算削減のこともあるのでタンブラーを削り写真だけでも良いのではないか。</p>

16	生涯学習講座実施事業	<p>市民大学講座 特別編で講演いただいた金澤翔子さんの書かれた作品を庁舎の1階等で展示いただきたい。</p> <p>⇒ 補強をしてから1階ロビーに展示予定</p>
17	社会教育団体支援事業	<p>芸文協に入っていないなくても文化祭等に参加している人が大勢いる。手続き等が面倒で芸文協に入らないのかもしれないが、多くの人に入っただき交流を深めることが大切だと考える。芸文協に入れば施設利用について減免になる等、芸文協に入ることのメリットをもっと宣伝した方がよいと考える。</p>
20	中央公民館事業	<p>安曇野市総合芸術展等の開催について広報には掲載していると思うが、掲載する時期が早すぎて忘れてしまうことがあるので、周知の方法等工夫いただければと思う。</p>
21	交流学習センター等事業	<p>0歳からのミニコンサートについては、会場で子どもさんが泣いたり騒いだりしてもよいコンサートとのことだが、最後には、コンサートのマナーについても指導してもらいたい。</p> <p>音楽を好きになるための、子どもにとってよい機会なので続けていただきたい。</p>
22	図書館活動推進事業	<p>保育園でも早朝保育ということで職員以外の方が1時間早く出勤して対応している。図書館も7月終わりから8月20日頃までの1ヶ月間だけでも、臨時の職員等を頼むなどして1時間早く9時頃から開館することはできないか。夏の10時だと暑くてなかなか行くことが躊躇われる。</p>
23	人権教育推進事業	<p>指導員をしているが、昨年度担当した地区で、市の職員に出向ってもらって講師をしてもらったところ、非常によい内容であった。市の職員が地域に出向いて講演をしていただけるのは、非常に有意義であり今後も続けていただきたい。また、各地域でもそのような方を選んでいただくことも大事だと思う。</p>
24	人権啓発事業 (安曇野市1/2成人式記念 人権・平和特別授業 ～kizuki～)	<p>長時間話を聞いている講演よりも、人権に関するミュージカルの方が良いと感じた。（「とべないホテル」は非常に良かった）</p>
25	体育団体等支援事業	<p>体育施設の減免のみを目的として体育協会やスポーツ少年団に加盟しようとする団体が増えてきている。</p> <p>事務局で注意等しているが、市教委でも指導していただくことも必要と考える。</p>